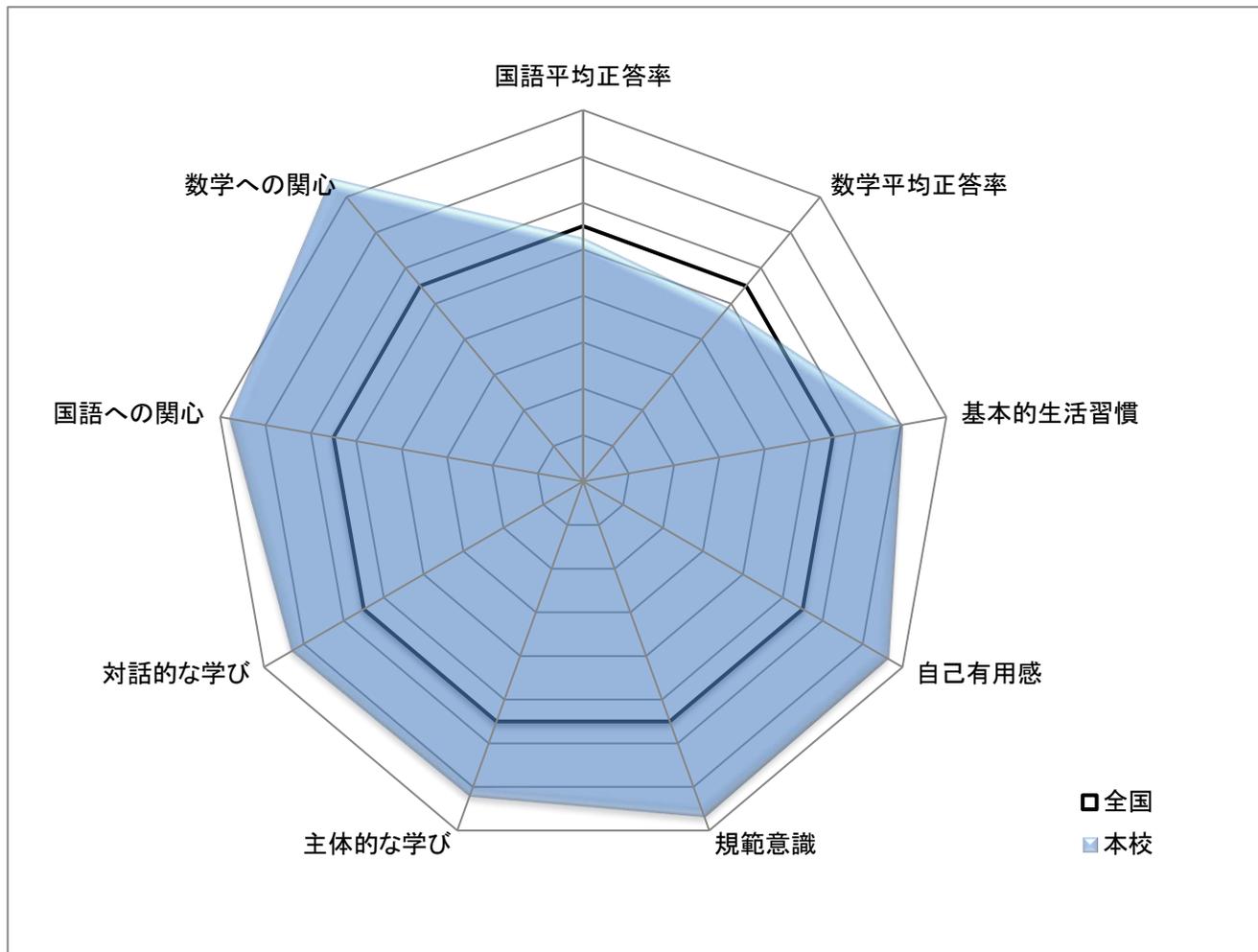


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

授業規範は守られ、ほとんどの生徒が積極的に授業に参加し、授業中に活躍したい気持ちも強く、挙手や発言も多く、グループ学習も意欲的に取り組んでいる。しかし、国語と数学の平均正答率を見ると、知識の定着と各事象を説明したり表現する力に課題が見られる。

《授業改善のポイント》

国語については、全体の傾向として「言語知識」が不足しており「思考判断」、特に「読むこと」に著しい影響を与えている。「書くこと」も苦手だと自覚する生徒が多い中、授業では意欲を見せ、一定の成果が出ている印象である。この書くことへの意欲を利用したい。改善策としては、どの単元でも「読むこと」を基本とし、その教材に沿った言語知識を獲得できるような記述式のワークシートを活用していく。

数学においては、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。また、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られた。したがって、授業の中で日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させることが重要である。また、数学的に物事を説明することができる力を身につけさせることが重要である。

《チャートの特徴》

本校の生徒は大半が学校活動に意欲的で、公共心をもっている。授業態度も良く、学校行事にも積極的に取り組み、地域のボランティア活動にも参加希望が多いところにもそれが反映されており、それが自己有用感や規範意識の高さとして表れている。しかし、学習への関心・意欲の高さに対して国語・数学ともに平均正答率が低いアンバランスさが特徴的で、成果を定着させる学習方法に課題があることが読み取れる。

《家庭・地域への働きかけ》

保護者会、三者面談等で現在の学力や学習状況について課題を丁寧に説明する。学習成果の定着には家庭学習の重要性を理解してもらい、習慣化を働きかける。また、生活リズムを整え、睡眠時間を確保することも呼びかける。